令和４年度実施

市民協働「熊谷の力」事業
「はじめの一歩助成金」事業

合同成果報告会

熊谷市市民活動推進課

次　　第

日　時：令和５年７月６日（木）
午後１時３０分から
会　場：大里コミュニティセンター
東棟ホール

１　開　　会

２　挨　　拶

３　報告発表　　１３：３５～１４：５５（予定）

市民協働「熊谷の力」事業

報告発表順	区分	事業名	報告者		発表予定時刻
			市民活動団体	所管課	
①	市提案	歴史ロマン映像アーカイブス事業	熊谷アーカイブス研究会	江南文化財センター	13：35～13：50
②	市提案	空き家利活用促進事業	一般社団法人埼玉県建築士事務所協会熊谷支部	安心安全課	13：50～14：05
③	市提案	ひろせ野鳥の森駐輪場整備事業	埼玉県立熊谷工業高等学校ひろせ野鳥の森駐輪場維持管理実行委員会	安心安全課	14：05～14：20

休憩（５分）

「はじめの一歩助成金」事業

報告発表順	区分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表予定時刻
④	スタート助成金	空き家を活用した地域の交流の場づくり	コミュニティハウス３１０	14：25～14：40
⑤	スタート助成金	ぷちくまがや	ぷちくまがや	14：40～14：55

４　講　　評

５　閉　　会

熊谷市協働事業提案制度

令和４年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	市民協働「熊谷の力」歴史ロマン映像アーカイブス事業	
実施団体等	実施団体：熊谷アーカイブス研究会	所管課：江南文化財センター

１　事業目的	市内の中に埋もれている歴史文化や史跡、建造物等を紹介する映像作品を制作し、現状での課題でもある市内外の認識度を高めるとともに、アーカイブス・デジタル化により、新たなツールを活かし、本市の魅力を世界に発信することを目的とした。	
２　事業概要	映像を通して身近な土地の風土に触れる疑似体験する機会を提供し、熊谷市の歴史や文化に対する市内外の認識度を高めることを目的に、25 件に集約した各題材の映像撮影と編集を通じたメディア芸術としての映像作品を制作した。これらの映像をデジタル化、オープンデータとして対外的な利活用を図り、熊谷の魅力ある映像記録を世界に発信することができた。	
３　事業期間	令和４年７月１日～　　令和５年３月３１日	
４　事業区分	市提案事業（該当）　・　市民提案事業	
５　事業形態	委託事業（該当）　・　補助事業（補助率 100%）	
６　事 業 費	総事業費：　2,200,000 円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	事業収入：　0　円（Ａ）
	実施団体の負担額：　0　円（Ｂ）	市の負担額：　2,200,000　円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 ブルーレイ仕様や高性能機材による映像記録化によって、文化遺産の映像データアーカイブスの可能性を広げることができた。制作作品のクオリティの向上維持を進め、最新の技術や見地を活用することで、作品化の意義を高めることができた。 ●達成度 市民協働によって行うことで、多面的な視線からの映像記録作成が可能となり、情報発信に際しても幅広く実施することができた。 ●波及効果 制作した映像作品をインターネット上のデジタルアーカイブスとして所蔵し、YouTube などで積極的に発信することで、それらの映像視聴を契機として、熊谷への関心の向上と来訪機会の増加を期することができた。	
８　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 映像作品の制作について最新鋭技術等を活用することができた。完成作品の公開及び報告会の運営を進めるとともに、対外的な情報発信をすることができた。 ●所管課から見た協働の効果 制作する映像の監修、完成作品の公開に関する利用許諾等の調整、報告会でのアウトリーチを実施することができた。	
９　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 対象となる文化財などを動画・画像で撮影したデータは、画素数などをはじめ鮮明で細密であることが求められる一方、身近な文化財の情報発信においては、スマートフォン等でも簡易的に閲覧できるほか、情報伝達が可能な限り容易なデジタルデータの共有が望ましい。データの発信者と受信者を媒介する適切なメディア環境を構築する必要がある。 ●所管課から見た今後の展開と課題 文化財の種類は、美術作品、貴重資料、行政資料、その他、建造物、文化遺産や無形文化財など多岐に渡ることから、文化財のデジタル化からコンテンツ制作、アーカイブデータの活用方法に至るまで、デジタルアーカイブ事業は多面的に及ぶことから、その手法等について検討する必要がある。	

熊谷市協働事業提案制度

令和４年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	市民協働「熊谷の力」空き家利活用促進事業	
実施団体等	実施団体：一般社団法人埼玉県建築士事務所協会熊谷支部	所管課：安心安全課

１　事業目的	空き家を利活用するメリットや手法を、空き家の所有者等や地域住民と共有し、空き家の利活用による地域活性化を促進させていく。専門家による相談窓口を設け、魅力的な空き家改修の仕様や利用方法を共有し、市民が空き家を利活用してみたいと思うきっかけとなるプラットホームの構築を目的とする。			
２　事業概要	１．周知用チラシおよび利活用概要パンフレットの作成 ・SNS 等では情報が届かない高齢世代に空き家で悩んでいる人が多いことを想定し市報等で周知を行う。 ・空き家を利活用するための関連法令等や実際の利活用例を掲載したパンフレット（建築士と考える空き家利活用読本）を作成する。利活用についてイメージしやすくすることで、利活用方法の選択肢を提案する。 ２．空き家利活用セミナー及び個別相談会の開催 ・プロジェクターを用い、実際熊谷市内で行ってきた利活用物件の解説を行う。それぞれの空き家状況に応じた利活用方法のポイントの説明を行う。 ・個別相談は持参資料などを参考に、空き家状況の確認を行う。 ３．空き家見学ツアーの開催 ・過去、実施団体で利活用を行った案件４カ所を見学する。 ４．個別相談案件の現地確認と利活用提案 ・現地確認をしたのち、利活用の方向性やポイントについて提案、説明を行う。			
３　事業期間	令和４年５月２日～　　　令和５年３月１７日			
４　事業区分	市提案事業（囲み）　・　市民提案事業			
５　事業形態	委託事業（囲み）　・　補助事業（補助率　　　　%）			
６　事 業 費	総事業費:	1,000,000 円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	事業収入:	0 円（Ａ）
	実施団体の負担額:	0 円（Ｂ）	市の負担額:	1,000,000 円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 ・空き家があるがどこへ相談したらいいのわからない方に対して相談窓口を提示することができた。 （相談先がわからず、以前耐震相談会の窓口へきた方が利活用相談にきた。） ・利活用セミナー参加者の中から、多くの人の個別相談に対応することができた。相談内容は難しい内容が多く、専門家が間に入らないと進展しない案件が多かった。現地を一緒に確認することで悩みを共有することができ、空き家の現状の整理をすることができた。 ●達成度 ・セミナー等参加人数			

		セミナー	個別相談会
空き家利活用セミナー個別相談会	第１回	４名（３組）	２名（１組）
	第２回	６名（４組）	５名（３組）
	第３回	７名（６組）	３名（２組）
	第４回	４名（４組）	１名（１組）
合計		２１名（１７組）	１１名（７組）
空き家見学ツアー		８名（６組）	

	・参加者アンケート 別添アンケート集計結果のとおり ●波及効果 ・パンフレットは利活用についてコンパクトにまとまっているので、今後もパンフレットを目にした人は空き家利活用に対して前向きに検討することができそう。 ・個別相談後の提案については好意的な意見が多かった。資金面に対しての不安が残ったり、やはり手放したくないという気持ちが出てきたりして、すぐに利活用するという案件はなかったが、引き続き相談に乗ってほしいという案件が半数くらいあった。 ・空き家利活用セミナーには、今後自分でも空き家利活用を事業としてやりたいという人がいた。相談先が増えることで、利活用案件が増えていくことが期待できそう。
8　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 ・行政と一緒に行う事で、実施団体の看板を活かすことができた。 ・前年度の協働事業では拾いきれなかった人を対象に行う事が出来たので、継続性がありよかった。 （きちんと対象者をしぼることができたので、混乱がなかった。） ・SNS 等を利用しない世代にも情報発信することができた。
	●所管課から見た協働の効果 ・空き家を改修して利活用する際は、個人で行うことは難しく、専門家の関与が必要になることが多いが、利活用を検討しているものの何からはじめれば良いのかわからないという空き家所有者に対して、利活用に関するノウハウを有する建築士によるセミナーや相談の場を提供することができた。 （セミナーや個別相談会、見学ツアーの参加者アンケートによると９６％の方から、内容について「満足している」又は「やや満足している」と回答いただいている。）
9　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 ・個別相談案件は市街化調整区域の案件は少なく、市街地における空き家が多いことがわかった。今回はセミナー会場の関係か、大里地区、江南地区、妻沼地区からの相談がなかった。古い建物のほうが利活用しやすい（価値を上げやすい）傾向もあるので、身近に相談できる場所があると案件が増えていくと思う。 ・提案の中には飲食店を行うのはどうかという案件もあったが、事業を行う人を見つけるところからになるので、マッチング体制がないと利活用までは進まないようだ。他県では事業者向けの空き家見学ツアーを行い、空き家と事業者のマッチングを行っているところもあるので、参考としたい。
	●所管課から見た今後の展開と課題 ・作成したパンフレットは、実施団体が過去実施した利活用事例について改修費用やその後の利用状況を含めて記載しているので、利活用について考える契機となるよう、空き家の所有者や管理者に対して情報提供の通知を送付する際に同封するなど、今後も周知に努めたい。 ・空き家の所有者等のほか、空き家を利活用したいと考えている方も、事業の対象としたことにより、双方向からの利活用に向けた機運醸成を支援することができたものと考える。

熊谷市協働事業提案制度

令和４年度実施　市民協働「熊谷の力」事業　**成 果 報 告 書**

事 業 名	市民協働「熊谷の力」　ひろせ野鳥の森駐輪場整備事業	
実施団体等	実施団体：埼玉県立熊谷工業高等学校ひろせ野鳥の森駐輪場維持管理実行委員会	所管課：安心安全課

１　事業目的	駅利用者の駐輪場の整備を生徒が行うことで、自転車駐輪場の環境整備のみならず、生徒の技術取得と地域への課題意識や貢献の意識を醸成し、将来、地域・社会を担う人材の育成を目的とします。	
２　事業概要	秩父鉄道(株)の御厚意で自転車の整列や見回り等を行っていただいていたが、IC カードの導入により駅員の常駐が見込めなくなる。そのため、駐輪場内の老朽化した木枠等を撤去し、新規に駐輪枠を設置した。	
３　事業期間	令和４年４月１日～令和５年３月３１日	
４　事業区分	市提案事業（囲み）　・　市民提案事業	
５　事業形態	委託事業（囲み）　・　補助事業（補助率　　　　%）	
６　事 業 費	総事業費:　　３５３，９６９円（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	事業収入：　　　　０円（Ａ）
	実施団体の負担額：　　　　０円（Ｂ）	市の負担額:３５３，９６９円（Ｃ）
７　事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 今まで乱雑に置かれていた自転車だが､整備することで駐輪場内の駐輪位置が明確になった。 ●達成度 整備されたことで、整列駐輪を推進することができた。 ●波及効果 整列駐輪されることで、景観がよくなる。	
８　協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 学校の座学だけでは学ぶことが出来ない体験ができた。 生徒が就職する際に役立つ技術取得ができた。 生徒達が住んでいる地域の課題のため　自分たちで進んで意識を持ち問題の解決に努めることが出来た。 ●所管課から見た協働の効果 駐輪場を使う学生が整備することで、整列駐輪を意識してもらうことができる。 地域の抱えている問題に目を向けてもらえる。	
９　今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 作成した駐輪場をさらに景観よくし、使いやすくする工夫が必要である。 （R5 年度実施予定） 作成した駐輪場の維持管理。 卒業生が自転車を不要とし、放置している自転車の撤去。 ひろせ野鳥の森駐輪場やその他の駐輪場の使用マナーの徹底。 ●所管課から見た今後の展開と課題 駐輪位置の明確化により、整列駐輪の意識向上に役立つ事業であるが、今まで、見回り等をしていなかった駐輪場であるため、今後、定期的な見回り、放置自転車等の確認、撤去を行う必要がある。	

（別紙様式１）

団体名	コミュニティハウス 310

事業実績報告書（　2022 年度）

1　助成金名		「スタート助成金」「チャレンジ助成金」
2　事業名称		空き家を活用した 地域の交流の場づくり
3　交付決定助成金額		90,000 円
4　助成事業に要した経費の額		127,281 円
5　助成金要望額		90,000 円
6　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	「空き家活用の事例を多くの方に知ってもらう」「熊谷の地産地消をすすめる」がこの事業の目的でしたが、計画した参加者数とアンケート内容の満足度から、100%達成することができたと考えています。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	熊谷の農作物や熊谷の名物を活用し、地域を知る機会として開催した交流会では、市内の親子連れが９１人参加しました。交流会のはじめに活動の趣旨や空き家活用の可能性などについて説明しました。 参加者からは「自分たちでも活用したい」「熊谷でも多くの農作物がつくられていることを知った」といった声が寄せられました。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	近隣に住む参加者がシニアが活躍する食事会を開催企画する事例も生まれ、参加者同士の交流や地域を知るきっかけをつくることができました。
7　成果の自己評価		予定よりも多くの参加申込があった回には開催回数や時間を増やすなど感染予防策も取りながら実施することができた。実施前よりもこの取組を多くの方に知ってもらったことが大きな成果となりました。

（別紙様式１）

団体名	ぷちくまがや

事業実績報告書（　R4 年度）

１　助成金名		「スタート助成金」（丸囲み）　　「チャレンジ助成金」
２　事業名称		ぷちくまがや
３　交付決定助成金額		100,000 円
４　助成事業に要した経費の額		132,255 円
５　助成金要望額		99,000 円
６　助成事業の成果	⑴　助成事業の目的達成度	様々な地域から実行委員となる子どもたちが参加し、相談しながらまちの形成ができた。自身で考えた店舗を運営し、当日来たお客さんに自主的に教えることができていた。
	⑵　助成事業の成果の現われ度	この事業の中で、イベントに来た子どもたちから楽しいという言葉をいただいたり、来年度は参加したいというお言葉をいただいた。団体認知と多くの人に知ってもらうことが達成できたと考える。
	⑶　助成事業の成果の具体的内容	熊谷市役所の方や近隣の企業の方、衆議院議員の森田としかず様にも知っていただき、来年度へのつながりができたと考えている。
７　成果の自己評価		私たちの団体の目標である「大人も子供も併せて成長できるまち」「誰もが居場所を持つことができるまち」の創出ができる事業の「ぷちくまがや」が 100 名以上の方に周知できたこと、子どもたちが自主的にまちを創り上げることができた事業である。 熊谷に新たな子どもの居場所の創出ができたのではないかと考える。